



会議レポート

オブジェクト指向 2002 シンポジウム

オブジェクト指向 2002 シンポジウムが 2002 年 8 月 28 日 (水) から 2002 年 8 月 30 日 (金) の日程で日本科学未来館で開催された。閉会式での紹介によると、昨年と同じく約 230 名の参加者があり、割合は産業界/学界が半々であった。プログラムは一般講演に加え、基調講演、チュートリアル、デモ、パネル討論で構成され、開会前日の 8 月 27 日 (火) には併設チュートリアルも開催された。

併設チュートリアルでは、University of British Columbia の G. Kiczales 氏が "Aspect-Oriented Programming with AspectJ" と題して演習を交えた 4 時間の講義を行い、約 70 名が参加した。組み込みへの適用可能性、より複雑な Aspect の記述法についてなど、質問、ディスカッションも盛んに行われ、この分野への関心の高さがうかがえた。

第 1 日目となる 28 日の午前には G. Kiczales 氏による基調講演 "Aspect-Oriented Programming: Crosscutting Program Modularity and New Foundations for Engineering of Software" が行われた。続く午後には、モデリングなどに関するデモ、一般講演があり、並行してプロセスと Web サービスに関するチュートリアルが行われた。プロセストラックでは、藤井拓氏 (オージス総研) のチュートリアル「アジャイルなソフトウェア開発手法入門」とパネル討論が行われた。

Web サービストラック 1 件目のチュートリアルは、福原信貴氏 (野村総研) の「Web サービスの構築」である。Web サービス構築に必要な技術とその問題点が挙げられ、その上で既存のシステムの Web サービス化する際の課題が示された。2 件目のチュートリアルは、萩原正義氏 (マイクロソフト) の「Web サービスのアプリケーションモデル-モデリングの新潮流」である。

始めにマイクロソフトが提案する Web サービス開発方法の概要が示された。その後、XML デザインや Web サービスの概念が示され、最後にオブジェクト指向と Web サービスの再利用モデルの差異が示された。

29 日の午前は岩野和生氏 (日本 IBM) による「オートノミック・コンピューティングへの期待と展望」と題する基調講演が行われた。オートノミック・コンピューティングが IT 業界においてどのような位置付けにあるか、また、いかに重要な技術であるかについて述べられた。さらに、この技術の満たすべき要件、および今後の研究課題が示された。

午後は開発支援に関する一般講演、プログラミングに関するデモと 2 トラックを使ったチュートリアル、パネル討論があった。組み込みトラックでは渡辺博之氏 (オージス総研) のチュートリアル「組み込みシステムのためのオブジェクト指向開発ガイドライン [eUML] について」とパネル討論が行われた。Web サービストラックでは、Web サービスのセキュリティについてのチュートリアルがあったほか、「Web サービスへのチャレンジ」と題して、Web サービスの時代を踏まえたこれからのチャレンジについてのパネル討論があった。

丸山宏氏 (日本 IBM) のチュートリアル「Web サービスのセキュリティとセーフティ」では、セキュリティの考え方、およびその観点における Web サービスについての説明があり、後半では Web サービスで使用されるセキュリティ関連のさまざまな XML 仕様について詳細な説明が行われた。

パネルでは、現在の Web サービスの利点や抱えている問題に始まり、開発方法論、パーベイシブコンピューティングなどの次世代技術への取り組みまで幅広く活発な議論が展開された。

最終日の 30 日には、Web/分散システム、開発支援、再利用に関する一般講演と、言語、統合開発環境に関するデモが行われた。これらと並行して 4 つのチュートリアルと 2 つのパネル討論が行われた。

チュートリアルは高木浩光氏 (産総研) の「オブジェクト指向とセキュリティ」、金澤典子氏の「OO モデリング入門」、まつもとゆきひろ氏 (ネット応用通研) の「オブジェクト指向とスクリプト言語」、長瀬嘉秀氏 (テクノロジックアート) の「ビジネスシステムと MDA」の 4 件である。このうち、「オブジェクト指向とセキュリティ」では、オブジェクト指向プログラミングにより生み出されたセキュリティ脆弱性とその対処法が実例を使って示された。さらにプログラミング全般で繰り返されている脆弱性パターンを多数指摘され、開発者への警鐘が鳴らされた。「ビジネスシステムと MDA」では、MDA が提唱された背景と MDA によるモデル開発が解説された。特にモデル開発の解説での PIM から PSM

へのマッピングは、長瀬氏らが実業務を UML Profile for EDOC で記述し UML Profile for EJB にマッピングした例が使われ、これまで以上に現実味を帯びた MDA の解説となった。

パネル討論は「プログラミングのこれからの 10 年 - What's Next?」と「オブジェクト指向モデリングの教育」の 2 件が行われた。「プログラミングのこれからの 10 年 - What's Next?」では、「10 年後プログラマは現在よりも増えていると思うか、減っていると思うか?」という司会者の問いかけから始まり、「プログラマ」の定義、プロとアマチュアの違いなどさまざまな議論が展開された。

すべてのセッション終了後、発表論文の表彰式が行われ、登内敏夫氏 (NEC) の「アクセス制御ポリシー

による Class of Service の導入」と田井秀樹氏 (日本 IBM) らの「モデルに基づく Web アプリケーション開発環境 WAST」が優秀賞を受賞して閉会となった。

最後に全体を通して、Web や分散に関する話題と、組み込みに関する話題が増えていると感じた。また参加者からの質問もどちらかに関連する内容を多く見受けた。両者はモデリング手法、アーキテクチャなどの観点で大きく異なっているため、たまたま際立って見えただけかもしれない。しかし、オブジェクト指向の技法や研究成果を各分野に特化させ、より本格的に適用していく流れがますます強くなっていることは確かであろう。

OO シンポは毎回、基調講演、チュートリアルに魅力的なテーマが並べられている。準備運営に携わられた方々に感謝するとともに次回にも期待したい。

(山本晃治 / (株) 富士通)